

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	学校図書館整備費	部課名	教育委員会事務局学務課	課長名	三枝直樹
		担当者名	石田勝己	内線	3331
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	学校図書館整備費(39-35-60-01)、学校図書館整備費(41-20-60-01)				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	年度	根拠	学校図書館法、子どもの読書活動の推進に関する法律、文字・活字文化振興法
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	確かな学力の定着・向上[04-01]			
目的	児童生徒の自発的な読書活動、適切な読書指導の場として、さらには、想像力を培い学習に関する興味、関心を呼び起こす「読書センター」としての機能と、調べ学習などの主体的な学習活動を支援し、授業の展開に寄与する「学習情報センター」としての機能とを併せ持つ場として、学校図書館を整備する。				
対象者等	区立小・中学校 33校				
内容	国の基準に基づく蔵書の整備（学校あて予算令達） 書架等の整備（学校あて予算令達） 学校図書館管理システムの整備				
経過	<p>H15年度まで：国の「学校図書館図書標準」にもとづく蔵書整備のため、教材教具費（一般需用費）の一部として購入費を各校令達。</p> <p>H16年度：「学校図書館整備費」を事業化し、学校図書標準充実分経費（小・中学校費）、学校図書館システム整備費（小学校費）、書架等更新費（小学校費）を新たに予算化。</p> <p>H17年度：充実分経費（小・中学校費）等を引き続き予算化。</p> <p>H18.2「荒川区学校図書館活性化計画」策定。</p> <p>H18年度：教材教具のうちの図書費について予算を統合。また、国基準冊数を100%充足させるため図書購入費（小・中学校費）を大幅に充実。書架の増設・更新経費、管理システム整備費を予算化。</p> <p>H19年度：引き続き、国基準冊数を充足した上で、図書の充実・更新購入及び書架の増設・更新を実施。</p>				
必要性	学校図書館は、学力の基礎となる「読み書き」を支援する、学校の中心的な役割を担う施設であり、充実の必要性は非常に高い。				
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				
	各学校が図書の選定や購入、運営の活性化を行う。				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）								
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度		
予算額			13,726	8,844	173,333	48,416	77,427		
決算額（20年度は見込み）			13,579	8,499	158,503	43,394	77,427		
人件費				2,155	3,843	3,416			
【事務分担量】（%）				25%	45%	40%			
合計（+）	0	0	13,579	10,654	162,346	48,416	77,427		
国（特定財源）									
都（特定財源）									
その他（特定財源）									
一般財源	0	0	13,579	10,654	162,346	48,416	77,427		
実績の推移	事項名		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	購入図書数(充実分相当冊数)				5,654冊	5,257冊	68,613冊	18,781冊	24,703冊
	蔵書管理システム整備				小4校	0校	小中2校	0校	小中9校
	書架等整備				小3校	0校	小中32校	小中20校	小中32校

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）		
一般需用費	図書等購入費(充実分)	119,088	図書等購入費	34,659	図書等購入費	56,584	
一般需用費	データソフト、管理ソフト等	933	データソフト、管理ソフト等	797	データソフト、管理ソフト等	908	
役務費	設定手数料	820	設定手数料		設定手数料		
備品購入費	管理システム用PCほか	567	管理システム用PCほか		管理システム用PCほか	3,150	
備品購入費	書架等	37,095	書架等	7,938	書架等	16,785	

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	児童・生徒の読書量	小9.5冊 中2.1冊	小10.3冊 中2.6冊	小10.9冊 中2.9冊		小 10冊 中 2冊	学習意識調査における1ヶ月あたり読書量(小・中学校平均)
	1ヶ月に一冊も本を読まない児童・生徒の割合	小6.5% 中25.0%	小3.0% 中18.0%	小4.0% 中17.7%		0%	学習意識調査における児童・生徒の割合(小・中学校平均)
	学校図書標準の達成率	小72.4% 中76.5%	小100% 中100%	小100% 中100%	小100% 中100%	100%	年度末冊数/学校図書標準冊数(小・中学校全校)

(問題点・課題分析)	蔵書の質および量の充実を図るため、継続して整備していく必要がある。 また、老朽化が著しい書架の更新や、管理システムの整備拡大、読書活動促進のための環境整備等を引き続き行う必要がある。
他区の実況	(実施 22 区 未実施 区)

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
蔵書の充実経費、書架等更新経費、管理システムの整備経費について、予算を確保していく。	学校における読書活動の充実に資する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	重点的に推進	児童・生徒の読書活動を推進するため、優先度は極めて高い。

況議(要旨)	14年二定 予算を重点配分、公共図書館の連携による一元的図書管理 17年四定 公共図書館とのオンライン化、学校図書館の地域開放
--------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	習熟度別学習	部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	鈴木 明雄
		担当者名	柿沼 広美	内線	3386
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	習熟度別学習(38-35-48-01)				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	13年度	根拠法令等	東京都の教育目標 基本方針1
終期設定	有	無	年度		
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準		計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	確かな学力の定着・向上[04-01]			
目的	児童生徒一人一人の個性や能力に応じた適切な指導方法を工夫し、能力や伸ばすことが求められており、理解の程度に応じた学習集団での指導体制を整え、指導工夫することによって、児童・生徒の能力を伸ばす。				
対象者等	全小・中学校（33校）の児童・生徒				
内容	学力差の出やすい教科において、学級集団とは別に児童・生徒の理解の程度に応じた学習集団を編成し、基礎学力の確かな定着と個性や能力の伸張を図る。				
経過	<ul style="list-style-type: none"> ・13年度 小学校6校、中学校8校を推進校として指定（そのうち小学校2校、中学校1校を重点校指定） 第三日暮里小学校にて習熟度別学習報告会 ・14年度 小・中学校全校で習熟度別学習を行う・平成14年11月 第三日暮里小学校にて研究発表会 峡田小学校にて習熟度別学習報告会 ・15年度 中学校全校にて2教科において習熟度別学習を行う 小学校4校（峡田・四峡・一日・三日）を重点校とし、習熟度別学習を行う ・16年度 小学校3校（峡田・四峡・三日）では、2教科で習熟度別学習を行う ・18年度 全小学校にて算数、全中学校にて数学と英語を実施 ・19年度 全小学校にて算数、全中学校にて数学と英語を実施 ・20年度 全小学校にて算数、全中学校にて数学と英語を実施 				
必要性	基礎学力の確かな定着と個性や能力の伸長を図る教育を充実させるために、児童・生徒の習熟の程度に応じたきめ細やかな指導を充実させる必要がある。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 都の少人数授業の加配教員の配置がなかった学校には、区費による講師を配置する。				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	58,914	49,343	48,666	36,037	35,460	29,071	32,528	
決算額（20年度は見込み）	57,331	46,296	28,101	27,221	27,399	25,998	32,528	
人件費				431	517	427		
【事務分担量】（%）				5	6	5		
合計（+）	57,331	46,296	28,101	27,652	27,916	26,425	32,528	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	57,331	46,296	28,101	27,652	27,916	26,425	32,528	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	実施数	全校実施	全校実施	全校実施	全校実施	全校実施	全校実施	全校実施

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
報償費	小学校指導者謝金		16,354	小学校指導者謝金	18,144		18,144
	中学校指導者謝金		5,432	中学校指導者謝金	11,340		9,072
	校内研修会講師謝金		173	校内研修会講師謝金	188	校内研修会講師謝金	312
	一般需用費	消耗品等（令達・小）	2,724	消耗品等（令達・小）	2,580	消耗品等（令達・小）	2,600
		消耗品等（令達・中）	2,716	消耗品等（令達・中）	1,795	消耗品等（令達・中）	2,000
						研究発表報告書	400

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	学力向上のための調査(区・中学校数学・英語)	数68.7 英64.3	数66.1 英71.1	数68.2 英69.0	数70 英75	数84.5 英82.2	学力向上のための調査の該当教科の基礎の達成率
	学力向上のための調査(区・小学校算数)	81.3	82.2	82.7	85.0	23校 88.0	学力向上のための調査の該当教科の基礎の達成率
	学力向上を図るための調査(都)	小算9位 中数38位 中英38位	小算22位 中数40位 中英33位	/	/	小算10位 中数30位 中英30位	学力向上を図るための調査の該当教科の順位（49区市の中の順位）

(問題点・課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導力の向上 ・習熟度別学習の効果的な指導の在り方 ・指導計画の充実、学習集団編成の適正化 ・習熟度別学習による成果の検証
他区の実況	<p style="text-align: center;">（実施 14 区 未実施 8 区）</p> <p>習熟度別学習で実施しているのは23区中、15区である。（実施...千代田、中央、港、文京、江東、品川、目黒、大田、渋谷、豊島、北、荒川、練馬、足立、葛飾）8区は未実施である。（新宿、台東、墨田、世田谷、中野、杉並、板橋、江戸川）</p>

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
指導室訪問、校内研究会において、指導の検証、成果・課題を他校へ周知する。	習熟度学習の成果を共有し、各校の実践に活用できる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	継続	きめ細かい指導の充実を図る。

議（要旨）	
-------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	学力向上のための調査	部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	鈴木 明雄
		担当者名	堀越 勉	内線	3384
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	学力向上のための調査（38-35-50-01）				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	14年度	根拠	
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	確かな学力の定着・向上[04-01]			
目的	<p>基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、自ら学び自ら考える力などを含めた確かな学力を児童・生徒に身につけさせていくことが本区の教育の基本的な目標であり、そのためには、学力がどの程度身につけているかの検証が必要との認識から、本調査を実施する。本調査の目的は、以下のとおりである。</p> <p>(1)児童・生徒一人一人が学習の到達度および学習に対する意識を客観的に認識することによって、自らの取り組むべき課題を明確にした主体的な学習を通して、確かな学力をつける。</p> <p>(2)教師の指導内容・方法の改善や学校の教育計画の改善を図り、児童・生徒の学習の取り組みなどを的確に支援することによって、学校の教育活動の充実に資する。</p> <p>(3)確かな学力を身に付けさせていくという基本的な目標に対する学校教育の成果と課題を明らかにすることにより、本区学校教育への信頼を高める。</p>				
対象者等	区内小・中学生				
内容	<p>1 調査内容の構成 学習内容が身に付いているかどうかを把握する「学習到達度調査」と学習に対する意欲や態度がどのように養われているかを測る「学習意識調査」から構成し、2つの調査結果の関連から、毎年の児童・生徒の学習状況の全体像を把握する。</p> <p>2 実施時期 12月下旬に実施する。</p> <p>3 実施内容 小学校 学習到達度調査（国語・算数）及び学習意識調査 中学校 学習到達度調査（国語・数学・英語・社会・理科）及び学習意識調査 ただし、小学校第5学年は社会・理科を実施 すべての教科について、教科書に即した基礎的な問題を実施する。ただし国語・算数数学は、活用型の問題も実施する。</p>				
経過	<p>平成14年度より実施 平成15年度より小学校第5学年及び中学校第2学年は社会・理科を加えて実施 平成17年度においては、東京都教育委員会指定校事業として「授業改善研究推進校」（尾久小学校・2ヵ年指定 250千円）及び国立教育政策研究所指定事業として「全国的かつ総合的な学力調査の実施にかかる研究指定校事業」（尾久八幡中学校・1ヵ年指定 150千円）を設置する。（両事業とも予算移用対応）「授業改善研究推進校」は18年度より「東京都研究指定校事業（38-10-35-01）」へ移行 平成19年度に「学力向上のための調査」評価検討委員会を設置し、平成20年度からの実施内容の検討を行った。</p>				
必要性	授業改善を図るために、児童・生徒の学力の定着状況を的確に把握し、授業改善を図るために学力向上のための調査を実施する。また、調査結果をもとに教員の授業力の向上や家庭教育の啓発についての取組も進める。				
実施方法	<p>（2一部委託）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）</p> <p>・調査問題の開発等は教育委員会が指名した校長と問題作成検討委員会と教育関係機関との共同で行う。 ・学力到達度調査委託（19年度委託料 14,795,109円（株）ベネッセコーポレーション）</p>				

		（単位：千円）						
		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
予算・決算額等の推移	予算額		15,944	15,924	15,121	15,870	22,314	22,337
	決算額（20年度は見込み）	習熟度から15,721	13,318	13,362	14,760	15,331	16,201	22,337
	人件費				862	172	3,843	
	【事務分担量】（%）				10	2	45	
	合計（+）	0	13,318	13,362	15,622	15,503	20,044	22,337
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）							
	一般財源	0	13,318	13,362	15,622	15,503	20,044	22,337
	実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	都学力向上のための調査（基礎・基本）	全校実施	全校実施	全校実施	全校実施	全校実施	抽出校	抽出校
	都学力向上のための調査（問題解決）						全校実施	全校実施

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）		
	報償費	調査問題検討委員謝金	28	調査問題検討委員謝金	14	調査問題検討委員謝金	173
	委託料	学力到達度調査委託	14,270	学力到達度調査委託	14,795	学力到達度調査委託	20,573
	委託料	ホムパージ作成業務	499	ホムパージ作成業務	686	ホムパージ作成業務	741
	委託料	区報特集号・折込、封入等	312	区報特集号・折込、封入等	290	区報特集号・折込、封入等	325
	一般需用費	区報特集号・印刷製本	223	区報特集号・印刷製本	395	区報特集号・印刷製本	446

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	学力向上を図るための調査(都)	小9位 中40位	小30位 中39位	実施せず	実施せず		都学力調査の区市町村別平均点の順位
	学力向上を図るための調査(都)			小37位 中39位	小20位 中30位	小20位 中30位	問題解決能力の順位

(問題点・課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・実施時期の検討や、民間教育機関と共同した問題開発、結果の分析等について、円滑かつ確実に実施できる新たなシステムを整備する必要がある。 ・学力向上のための調査結果を受けた各学校の取組をさらに具体化していく必要がある。特に、中学校の学力向上のための具体的支援が急務である。 ・学習到達度調査と学習意識調査の分析を行い、基本的な生活習慣等の改善に向けた取り組みを行う必要がある。
他区の実況	<p style="text-align: center;">（実施 15 区 未実施 7 区）</p> <p>全学年実施は荒川区のみ。平成19年度未実施区（江東区、目黒区、大田区、世田谷区、渋谷区、板橋区、江戸川区）</p>

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
実施方法をはじめ、調査のあり方の見直しをはかる。	年間を通じて、各担任が指導力の向上をはかることができる。
学校パワーアップ事業との関連において、各学校がより分析に活用しやすくなるよう、資料提示の方法を開発する。	各学校が学校改善のために、より多様で具体的な手だてを講じることができるようになる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	推進	学力向上の課題の焦点化を図るため活用する。

議会議況(要旨)	
----------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	教科担任制	部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	鈴木 明雄
		担当者名	堀越 勉	内線	3384
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	教科担任制(38-35-64-01)				
事務事業の種類	新規事業	（ 20年度 19年度 ）		建設事業	それ以外の継続事業
開始年度	昭和	平成	13 年度	根拠	小学校学習指導要領第1章総則第5指導計画の
終期設定	有	無	年度	法令等	作成等に当たって配慮すべき事項 2 - (5)
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	確かな学力の定着・向上[04-01]			
目的	小学校の高学年において、指導内容の専門性が高まる教科の指導に教員の特性を生かした教科担任制を導入し、これによって、指導方法の工夫改善を図り、児童の学習意欲を高め、基礎学力の充実を目指す。				
対象者等	区内小学校の児童 ・平成13年度から（4校）・・・尾久西小、大門小、一日小、ひぐらし小 ・平成17年度（3校）・・・尾久西小、大門小、ひぐらし小 ・平成18年度（4校）・・・尾久西小、大門小、ひぐらし小、尾久宮前小				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の実態に応じて担任教諭の間で教員の特性を生かして担当教科の分担を行う。 ・指導方法の工夫改善や児童の変容など、その効果を検証する。 				
経過	平成18年度からは予算化せずに実施する。				
必要性	指導法の改善をはかり、児童の学習意欲を高め、基礎学力の充実をはかるために必要。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	400	800	400	300	0	0	0	
決算額（20年度は見込み）	283	622	400	291	0	0	0	
人件費				0	0	0		
【事務分担量】（%）				0	0	0		
合計（+）	283	622	400	291	0	0	0	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	283	622	400	291	0	0	0	
実績の推移	事項名							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
実施校	4	4	4	3	4	0	0	

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
			0		0		0

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	学力向上のための調査（区）	75.1%	78.4%	0	0	0	当該校の実施教科の基礎の達成率の平均

（問題点・課題分析）	習熟度別学習の全校実施やチームティーチングを同時に展開していくために、実施教科などの検討が必要である。
他区の実況	（ 実施 8 区 未実施 14 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
教育課程の内容に応じ、各教科担任の専門性を生かしながら調整する。	専門的な面からの指導を展開することができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	別途、小中一貫教育推進事業の調査研究の中で取り組む。

況議（要旨問状）	
----------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	外部講師派遣（ティーチングスタッフ派遣）	部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	鈴木 明雄
		担当者名	稲垣 達也	内線	3386
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	外部講師派遣(38-35-80-01)				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	13年度	根拠	
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準		計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	確かな学力の定着・向上[04-01]			
目的	区内外の公立私立学校教員や専門分野の学芸員等を中学校に一定期間に派遣し、教科の学習において、深化、発展させる内容等について授業を行い、生徒の学習意欲や知的想像力を高める。				
対象者等	区内中学校（3校）の生徒 ・平成16年度.....三中、尾久八幡中、諏訪台中 ・平成17年度.....一中、三中、諏訪台中 ・平成18年度.....三中、諏訪台中 ・平成19年度.....三中				
内容	・区内外の公立私立学校（例：開成学園、都立高校、保健科学大学、学芸大学等）の教員等を年間6回（1回2時間）実施校に派遣する。 ・授業内容・・・発展的な理科の実験及び講義（液体窒素を使った超低温の世界の実験） 太古の世界、深海、宇宙、大地、南極、環境・エネルギー電子顕微鏡に関する、専門家による授業 ・派遣は、教科の授業で行うことを基本とする。 ・1教科の中で、シリーズとして講座を開設する。 ・効果的な活用の方法について、実施校で工夫する。				
経過	平成13年度から開始した。				
必要性	中学校では扱うことの少ない実験機材等を活用した授業や、より発展的・応用的な学習をとおして、生徒が学びの楽しさ、面白さを味わい、生徒の学習に対する興味・関心やより高度な学習への意欲を高めることができる。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 各中学校が応募し、選考して指定する。				

		（単位：千円）						
		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
予算・決算額等の推移	予算額	690	690	414	414	414	436	560
	決算額（20年度は見込み）	345	230	276	207	138	295	560
	人件費				431	172	854	
	【事務分担当】（%）				5	2	10	
	合計（+）	345	230	276	638	310	1,149	560
	国（特定財源）							
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	345	230	276	638	310	1,149	560	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	実施校	三中	三中	三中	一中	三中	三中	三中
		尾久八幡	尾久八幡	尾久八幡	三中	諏訪台		
		諏訪台	諏訪台	諏訪台	諏訪台			

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）		金額（千円）		金額（千円）	
	報償費	講師謝金	138	講師謝金	274	講師謝金	560
	一般需用	消耗品		消耗品	21		

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
	授業実施時数	83.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	実績 / 予定回数

(問題点・課題分析)	<p>年度当初より学校の教育課程に位置付け、計画的に実施していくこと。 派遣講師との連携を密に取り、通常の指導との関連を明確にする。 都立高等学校教諭に講師を依頼する場合、勤務との兼ね合いで謝金を辞退されることがある。</p>
他区の実況	（ 実施 7 区 未実施 15 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
教育課程の内容を派遣講師が十分に理解したうえで実施できるように調整する。	学校教育と密接に関連した発展的な内容の授業を展開することができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	継続	理科教育充実の啓発を図る。

(議会議決要旨)	
----------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	学校図書館指導員	部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	鈴木 明雄
		担当者名	稲垣 達也	内線	3386
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	学校図書館指導員(38-43-10-01)				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	17年度	根拠	
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準		計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	確かな学力の定着・向上[04-01]			
目的	学校図書館を活用し、読書活動を支援する学校図書館指導員を配置することによって、図書資料の選択・収集・提供等がより効果的に行なうことが可能となり、学校図書館の積極的な利用を勧め、子供達の読書活動を活性化する。				
対象者等	区内小・中学校全校の児童・生徒				
内容	<p>学校図書館指導員の全校配置（小学校推進校：第三日暮里小学校、赤土小学校は週5日、第一日暮里小学校及び汐入小学校、南千住第二中学校は週3日の配置、その他は、週2日の配置。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導員の要件 児童図書や児童文学に関する広範な知識と、子どもの発達段階に応じた図書の選択に関する知識及び子どもの読書指導に関する知識と技術を有する司書又は司書に準ずる者 ・指導員の勤務 毎週、授業時間帯に常駐するものとし、年間、授業の行われる週を基本として配置する。 ・指導員の役割 日常的な学校図書館の運営（図書資料の整理・推薦図書の紹介、保護者等のボランティアとの連携・協力） 司書教諭や図書主任と連携をとった読書指導計画の作成等 公立図書館との連携 				
経過	平成17年度 第三日暮里小学校、赤土小学校 平成18年度 第三日暮里小学校、赤土小学校、第一日暮里小学校、南千住第二中学校 19年度 全校配置。赤土小・第三日暮里小は週5日、第一日暮里小学校、南千住第二中学校は、週3日、その他は、週2日の配置となった。 20年度は、さらに汐入小学校を週3日とした。				
必要性	学校図書館を活性化することにより読書活動に興味・関心をもち、自分が必要な情報を学校図書館から引き出したり、読後の感想を表現するなど国語力の向上を図ることができる。				
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額				3,024	5,411	37,227	38,329	
決算額（20年度は見込み）				2,855	5,411	35,812	38,329	
人件費				431	1,293	854		
【事務分担量】（%）				5	15	10		
合計（+）	0	0	0	3,286	6,704	36,666	38,329	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	3,286	6,704	36,666	38,329	
実績の推移	事項名							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
指導員配置校				三日 赤土	三日 赤土	全校配置	全校配置	
					一日 南二中			

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	指導員謝礼	5,411	非常勤職員報酬	31,938	非常勤職員報酬	34,054
	共済費			社会保険料（非常勤）	3,858	社会保険料（非常勤）	4,242

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
	児童・生徒の読書の状況に関する調査	調査中	70.0%	70.0%	70.0%	70.0%	授業以外で学校図書館を利用した児童・生徒の割合

（問題点・課題）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書の充実に対応した書架の整備や、子どもたちの利用に適した設備等の環境整備が必要である。 ・ 子どもたちの読書活動を促進する効果的な運営体制を確立し、運営内容の改善を図る必要がある。 ・ 学校図書館指導員の効果的な配置・運用を図る必要がある。 ・ 学校図書館指導員の資質の向上をさらに図る必要がある。
他区の実況	（実施 全校配置4区、一部配置5区 未実施 13区）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
学校図書館指導員の配置日数を増やすことによる運用の充実	図書利用率の向上、読書活動の活性化

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	継続	全校配置の中で指導員の資質・能力の向上を図る。

議（要旨）	
-------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	ティーチングアシスタント事業費	部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	鈴木 明雄
		担当者名	稲垣 達也	内線	3386
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	ティーチングアシスタント事業費(38-36-50-01)				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	14年度	根拠	
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分
					計画
					非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	確かな学力の定着・向上[04-01]			
目的	<p>平成14年度の新教育課程及び完全週5日制の実施により、基礎的・基本的な学力向上推進の支援が一層重要となる。</p> <p>そこで、荒川区教育委員会は、児童・生徒の学力向上を図ることを目的として、東京都教育委員会のティーチングアシスタントモデルの指定を受け、平成15年度まで区内の小・中学校からモデル校を指定して、大学生のティーチングアシスタントを配置した。</p> <p>平成16年度からは、区において事業を継続して実施している。</p>				
対象者等	区内小・中学校全校の児童・生徒				
内容	<p>本区及び東京都が実施した学力調査等の結果を踏まえ、児童・生徒の個に応じた指導を一層推進する必要がある学校や不登校問題等の健全育成上の課題を抱える学校に対して、教職を目指す大学生をティーチングアシスタントとして派遣し、各学校の学力向上の取り組みを支援する。算数・数学等の教科の授業において、児童・生徒の学習状況に応じての個別指導や、教員の指導の補助を行う。</p>				
経過	<p>平成17年度は、大学生を、実施校8校へ週3回年間70時間程度派遣した。 三瑞小、汐入小、四峡小、赤土小、尾久八幡中</p> <p>平成18年度は、大学生を、実施校8校へ週3回年間105時間程度派遣した。 峡田小、七峡小、尾久小、尾久西小、尾久宮前小、一中、五中、原中</p> <p>平成19年度は実施校を16校程度に拡大する。</p> <p>平成20年度からは、全校実施とした。</p>				
必要性	基礎学力の確実な定着を図るため、より個に寄り添った指導が必要である。				
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	0	600	1,000	1,200	1,751	3,300	7,080	
決算額(20年度は見込み)	600	589	923	784	966	1,705	7,080	
人件費				431	431	854		
【事務分担量】(%)				5	5	10		
合計(+)	600	589	923	1,215	1,397	2,559	7,080	
国(特定財源)								
都(特定財源)	600	589						
その他(特定財源)								
一般財源	0	0	923	1,215	1,397	2,559	7,080	
実績の推移	事項名							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
実施校・小	2	3	4	4	5	19	23	
実施校・中	1	1	1	4	3	6	10	

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	ティーチングアシスタント謝金	888	ティーチングアシスタント謝金	1,608	ティーチングアシスタント謝金	6,930
	一般需用費	消耗品購入	78	消耗品購入	97	消耗品購入	150

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
	ティーチングアシスタントの導入校	24.2%	24.2%	60.6%	100.0%	100.0%	実施校数 / 全学校数

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> ・ティーチングアシスタント事業による学力向上の成果の検証 ・ティーチングアシスタントの人材と質の確保 ・大学との継続した連携
他区の実況	<p style="text-align: center;">（ 実施 17 区 未実施 5 区 ）</p> <p style="text-align: center;">実施区内訳（全校実施5区、一部実施12区）</p>

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
大学のボランティアセンター等との連携を強化する。	中学校に派遣する大学生の確保が可能となる。
校長の推薦による大学生も対象とする。	人材と質の確保が可能となる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	継続	きめ細かい学習指導の充実を図る。

況議（要質問状）	
----------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	国語力の向上	部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	鈴木 明雄
		担当者名	稲垣 達也	内線	3386
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	国語力の向上(38-35-55-01)				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	18年度	根拠	
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準		計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	確かな学力の定着・向上[04-01]			
目的	国語はすべての学びの基本であるとの認識に立ち、本区の児童・生徒の実態を十分に考慮し、言語を用いた日常生活の改善や、授業の改善を目的として、国語力向上を目指す取組を推進する。				
対象者等	区内小・中学校全校の児童・生徒				
内容	<p><小・中学校> 荒川区版「推薦図書のリスト」「読書記録ノート」を作成し、児童・生徒の国語力の向上を図る。 推薦図書リストについては、小学校、低・中・高学年版、中学校版をそれぞれ作成し、児童・生徒の読書活動に資する。 荒川区版「小論文コンテスト」を実施し、読書をとおした小論文コンテストを行う。 読書活動の一層の充実を図り、学校図書館を活用した学習活動を推進するとともに、全ての教科等において言語を用いた論理的思考力や表現力の育成を目的とした『小論文』コンテストを実施し、優れた作品を表彰する。今年度は、昨年度までの読書感想文をひろげ、自分の考えや意見などを正確に伝える論理的な文章を書くことにより、自分の思いや考えを伝える力の育成を重視する。表彰式：平成21年1月17日（土）午後1時から日暮里サニーホールにて柳田邦男氏を招き表彰式を行う。</p> <p><小学校> 荒川区版あらかわ「漢字コンテスト」を作成し、学習指導要領に定められた配当漢字の定着度を高め、社会生活の基本となる言語能力の向上を図る。</p>				
経過	国語はすべての学びの基本であるとの認識に立ち、平成18年度事業開始				
必要性	すべての学びの基礎である国語力として、自分の考えをもち、論理的に意見を述べる能力や、目的や場面などに応じて適切に表現する能力が重視され、社会生活に必要な言語能力などを身に付けることが求められている。				
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額					1,225	1,437	1,201	
決算額（20年度は見込み）					602	1,401	1,201	
人件費					172	1,708		
【事務分担量】（%）					2	20		
合計（+）	0	0	0	0	774	3,109	1,201	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	0	774	3,109	1,201	
実績の推移	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
事項名								
1ヶ月あたりの読書量（冊）小					10.3	10.8	11	
1ヶ月あたりの読書量（冊）中					2.5	2.9	3	

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）		
一般需用費	参考図書購入	45	コンテスト消耗品	543	コンテスト消耗品	345	
	コンテスト消耗品	48	推薦図書リスト等作成	507	推薦図書リスト等作成	471	
役務費 委託料 報償費	推薦図書リスト等作成	477					
	賞状筆耕料	13	賞状筆耕料	0	賞状筆耕料	35	
			講演会講師派遣	330			
					講演会講師謝礼	300	
使用料賃借料	コンテスト表彰式会場	19	コンテスト表彰式会場	21	コンテスト表彰式会場	50	

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	学力向上のための調査（学習意識調査）		小10.3 中 2.5	小10.8 中 2.9	小11.0 中3.0	小11.5 中 3.0	1カ月あたりの読書量(冊)

（指標分）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書の選定と荒川区版「推薦図書のリスト」企画案の作成 ・ 各学年で学習する漢字を読み書きする力の定着 ・ 教科書の単元に沿った課題を設定した作文指導を充実
他区の実況	（ 実施 10 区 未実施 12 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
年度末の実施上の課題に基づき内容の見直しをする。	読み書きする力、表現力などの向上が期待できる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	推進	学力向上の最重点施策。

況議（会質問状）	平成20年 第1回定例議会 「国語力の向上のための今後の取組みについて」
----------	--------------------------------------

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	荒川区学校教育ビジョンの策定	部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	鈴木 明雄
		担当者名	平田 英司	内線	3385
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	教育ビジョン(38-30-05-01)				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	18年度	根拠	
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準		計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	確かな学力の定着・向上[04-01]			
目的	荒川区の教育について、学校教育の視点から分析等を行い、今後の目標を明確にするとともに、達成のための具体的な取組みを示すため、平成18年度内に荒川区教育ビジョンを策定する。平成19年度は策定済み。				
対象者等	児童・生徒・教員・区民				
内容	<p>区の新たな基本構想・基本計画との整合性を図りつつ、学校教育分野における中長期的な指針として、これからの学校教育の目指す方向性や施策の体系を取りまとめたもの。</p> <p>平成19年3月に策定した「荒川区学校教育ビジョン」で示した方向性を具体化するために、平成20年～22年を計画期間とする「荒川区学校教育ビジョン推進プラン」を平成20年3月に策定した。平成18年度以降は、教育プラン推進計画を策定し、具体的な指標に基づき、プランの具現化を図っていく。</p>				
経過	<p>平成16年度から検討を開始</p> <p>平成19年3月策定完了</p> <p>平成19年度は学校教育ビジョン重点事業を予算化し、別事業にて実施する。</p> <p>また、「荒川区学校教育ビジョン」で示した方向性を具体化するために、平成20年～22年を計画期間とする「荒川区学校教育ビジョン推進プラン」を平成20年3月に策定した。</p>				
必要性	<p>学校教育の分野において、中長期的な視点に立ってこれまで進めてきた取組みの成果を踏まえ、今後さらに充実を図り、教育を通して区民の夢や心を育むための「子育て教育都市 荒川区」を実現するため、これからの学校教育のあり方や施策の方向性を明確に示す必要があるため。</p>				
実施方法	<p>（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）</p> <p>策定検討委員会を設置して課題について議論を行った後、検討委員会からの報告書を基に、区議会の意見やパブリックコメントの実施結果も含めて教育委員会が策定した。</p>				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額					822	0	0	
決算額（20年度は見込み）					560	0	0	
人件費				4,310	4,741	0		
【事務分担量】（%）				50	55	0		
合計（+）	0	0	0	4,310	5,301	0	0	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	4,310	5,301	0	0	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	委員謝金	546		0		0
	食糧費	会議当日賄	12		0		0
	一般需用	消耗品費	2		0		0
	使用料及び賃借料	会場使用料	0		0		0

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
	研究会進捗率	100.0%	100.0%				実施回数 / 予定回数
	検討委員会及び幹事会進捗率		100.0%				実施回数 / 予定回数

(問題点・課題分析)	洗い出した課題を分析し、学校現場の声を反映したうえで、改善のための方策を図ることが必要。
他区の実況	（実施 15 区 未実施 7 区）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
学校教育ビジョンに掲載した取組みを実現していく。	計画を予算に反映させることで、教育の充実がはかれる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	継続	平成20年度より各事業に移管する。

(議会議要旨)	
---------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	学校教育ビジョン重点事業	部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	鈴木 明雄
		担当者名	平田 英司	内線	3385
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	学校教育ビジョン重点事業（38-68-10-01）				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	19年度	根拠	
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	確かな学力の定着・向上[04-01]			
目的	<p>日本語指導が必要な外国籍児童・生徒に対する適切な学校教育の機会を確保するため、編入当初の日本語指導と生活適応指導を充実する。</p> <p>食育を中心とした子どもや保護者の生活習慣の改善を目的として、食育推進校及び個性化教育推進校を設置する。</p> <p>小中一貫教育推進校を設置し、9年間を見通した教育により、一人一人の確かな学力を保障するとともに、個性の伸長を図る。</p>				
対象者等	児童・生徒・教員・区民				
内容	<p>ハートフル日本語適応指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人の児童・生徒に学校生活への適応を目指した初期の日本語指導を行うため、当該母語に対応できる指導員を3ヶ月程度派遣する。48時間を上限とする。 一人あたり編入学後3ヶ月以内に、児童・生徒の実態に応じて、基本的な日本語の指導、学校生活への適応指導の補助、保護者対応の補助を行う。原則として1回2時間週3回の実施とする。 <p>食育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 食を中心とした生活習慣に関する意識や実態を調査する。 実態調査の結果に基づき、「早寝・早起き・朝ごはん推進会議」を開催し、課題意識の共通理解をる。 朝ごはん対策モデル事業を実施する。 <p>小中一貫教育の推進</p> <p>汐入小と三中で連絡協議会を設置し、共同研究を推進する。</p> <p>平成20年度は、上記3つを別事業として実施する。</p>				
経過	<p>平成19年度</p> <p>ハートフル日本語適応指導事業（学校への指導員の派遣及びNPOと連携した補充学習指導開始）</p> <p>食育推進校の指定（瑞光小・二峡小・尾久小・尾久宮前小・七中・原中）個性化教育推進校（ひぐらし小）</p> <p>小中一貫教育推進校の指定（汐入小・三中）</p>				
必要性	今日の教育課題（外国人児童・生徒への適切な指導、食育の推進、小中一貫教育の推進）への対応のため不可欠である。				
実施方法	（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額						14,924	0	
決算額（20年度は見込み）						5,588	0	
人件費						2,135		
【事務分担量】（%）						25		
合計（+）	0	0	0	0	0	7,723	0	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	0	0	7,723	0	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費			指導講師謝金	4,179		0
	特別旅費			研究大会参加旅費	209		0
	一般需用			消耗品購入印刷製本	584		0
	役務費			賞状全文筆耕料	0		0
	委託料			食に関する調査委託	604		0
	使用料及び賃借料			コンクール会場使用料	0		0
	負担金補助及び交付金			研究大会参加費	12		0

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	日本語適応指導の充実	40	49	53			児童・生徒数
	食育推進校の設置			7			学校数
	小中一貫教育推進校の設置			2			学校数

（問題点・課題）	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語適応指導については、ニーズが高まってきており、今後、希望する児童・生徒数の増加が見込まれるため、事業の拡大が必要である。 ・食育については、推進校を中心に拡大し、全校で実施できるよう推進していく必要がある。 ・小中一貫教育については、モデル校（汐入小・三中）を中心に継続して研究していく必要がある。
他区の実況	（ 実施 13 区 未実施 9 区 ）

問題点・課題の改善策検討		
	平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	日本語適応指導（初期指導・学習指導）の運営方法について検討する。	希望する児童・生徒数の増加に対応できるようにする。
	食育推進校の研究を広げる。	食育推進校の拡大
	小中一貫教育の在り方について、研究を深める。	小中一貫教育で取り組める内容を具体的に示し、教育的成果を検証する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	継続	平成20年度より各事業に移管する。

議（要旨）	
-------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	あらかわ土曜スクール	部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	鈴木 明雄
		担当者名	山根 博	内線	3386
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	なし				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	18年度	根拠	
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	確かな学力の定着・向上[04-01]			
目的	希望する児童・生徒に対し、基礎的・基本的な内容に関わる確かな学力を定着させるとともに、学習意欲と学習習慣を身に付けさせるための補充学習を行う。				
対象者等	区内の希望する児童・生徒				
内容	<p>(1) 基礎・基本的な学習内容 小学校は国語、算数。中学校では国語、数学、英語など補充学習を中心に実施。</p> <p>(2) 発展的な学習 漢字検定、算数検定、英語検定、パソコンを活用した学習。学校図書館を活用した読書活動を通しての国語力の向上等。</p>				
経過	平成14年度4月より学校週5日制にともなう土曜日の休日を児童・生徒が自ら課題を見つけ、考え、課題を解決することができるように、「チャレンジサタデー教室」を実施してきた。更に児童・生徒に基礎的・基本的な学習課題のより一層の理解と確かな学力の向上を目指して、学校が土曜日に児童・生徒が学習できる場所を提供し補充学習に取り組む「あらかわ土曜スクール」を平成18年度より実施する。				
必要性	学力向上のためには、一人一人に応じた補充学習の徹底が必要である。				
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				
	全小・中学校で年間8回から11回程度。土曜日の午前中に実施。				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額					0	0	0	
決算額(20年度は見込み)					0	0	0	
人件費						0		
【事務分担量】(%)						0		
合計(+)	0	0	0	0	0	0	0	
国(特定財源)								
都(特定財源)								
その他(特定財源)								
一般財源	0	0	0	0	0	0	0	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	土曜スクールへの出席率（小学校）		41.0%	40.5%	50.0%	80.0%	参加数 / 対象児童数
	土曜スクールへの出席率（中学校）		15.0%	9.4%	20.0%	50.0%	参加数 / 対象生徒数

（問題点・課題分析）	小、中学校共に、各学校が全校体制で計画して実施すること。教員体制の確保。あらかじめ土曜スクールに参加して欲しい児童、生徒への働きかけ。児童、生徒一人一人の課題、要望に対して十分な学習課題の提供等。
他区の実況	（実施 11 区 未実施 11 区）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
学力調査の結果を生かしての学習内容の充実を図る。	学力向上。学習習慣の定着。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	継続	各学校の充実した取り組みを支援する。

（議会要旨）	平成20年6月（第二定例議会）にて土曜日の授業復活について自由民主党より質問があった。
--------	---

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	ハートフル日本語適応指導事業	部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	鈴木 明雄
		担当者名	山根 博	内線	3386
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	ハートフル日本語適応指導事業				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	20年度	根拠	
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	確かな学力の定着・向上[04-01]			
目的	来日後の外国人児童・生徒等に対する日本語初期指導のため、一定期間指導員を学校に派遣して、学校生活や社会生活にスムーズに適応できるよう支援する。さらに、継続指導が必要な児童・生徒を対象とした補充学習教室を設ける。				
対象者等	外国人児童・生徒（概ね編入後3ヶ月以内）				
内容	<p>初期日本語指導（派遣）... 外国人児童・生徒等の在籍する小・中学校に該当児童・生徒の母語が話せる日本語指導員を派遣し、日本の習慣や学校生活でのきまりや日本語の基礎的な理解を支援する。</p> <p>補充学習指導（通級）... 初期日本語指導が終了した小学校高学年から中学校の児童・生徒に対し、日本語が分からないために理解できない学習内容を理解するための補充学習指導を実施する。</p>				
経過	<p>平成17年度 ...日本語教室：毎週水曜日 1回2時間×41回 （韓国・朝鮮語...二日小、峡田小 中国語...瑞光小、ひぐらし小、諏訪台中） ...日本語個別指導教室：1回2時間×24回 （タガログ語...四峡小、尾久八幡中 英語...ひぐらし小、三中 中国語...尾久、三日、九中）</p> <p>平成18年度 ...日本語教室：前年度と同じ ...日本語個別指導教室：1回2時間×24回 （タガログ語...汐入小、尾久小、尾久西小、五中、原中 英語...九峡小）</p> <p>平成19年度 ...学校教育ビジョン重点事業に移行、ハートフル日本語適応指導事業（学校への指導員の派遣及びNPOと連携した補充学習指導開始）として実施 （初期日本語指導...56人、補充学習指導...9人）</p> <p>平成20年度新規事業</p>				
必要性	外国人児童・生徒の編入増加に直面する現場支援・学校適応支援をするために必要である。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額							4,852	
決算額（20年度は見込み）							4,852	
人件費								
【事務分担量】（%）								
合計（+）	0	0	0	0	0	0	4,852	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	0	0	0	4,852	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費					講師料	3,840
	消耗費					消耗品	112
	委託料					学習支援	900

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
	予算執行率				100.0%	100.0%	決算額 / 予算額
標	実績（初期指導及び補充学習指導 延べ人数）				70名	90名	実績（人数）

（問題点・課題分析）	<p>・日本語適応指導については、ニーズが高まってきており、今後、希望する児童・生徒数の増加が見込まれるため、事業の拡大が必要である。</p>
他区の実況	（ 実施 22 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
日本語適応指導（初期指導・学習指導）の運営方法について検討する。	希望する児童・生徒数の増加に対応できるようにする。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
	推進	NPO法人（多文化共生センター）との連携による日本語指導及び学習指導の充実の方向性を探る。

議（要旨）	<p> </p>
-------	----------

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	学校パワーアップ事業（学力向上マニフェスト事業）	部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	鈴木 明雄
		担当者名	稲垣 達也	内線	3388
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	学力向上マニフェスト事業 創造力あふれる教育の推進 未来を拓く子どもの育成（教育環境の整備）				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	20年度	根拠	
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準		計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	創意と工夫にあふれた教育の推進[04-02]			
目的	学校教育ビジョン「教育の荒川区」宣言による学校教育の実現に積極的に取り組むために、教育活動の活性化を図り、特色ある学校づくりを推進し、もって本区の教育の振興に資する。				
対象者等	荒川区立全小中学校				
内容	<p>平成19年3月に荒川区学校教育ビジョン - 「教育の荒川区」宣言！ - を策定し、学校教育ビジョンによる学校教育の実現に積極的に取り組むために、校長の予算執行上の裁量権を大幅に拡大し、各学校の教育活動を活性化させる。</p> <p>【学力向上マニフェスト】校長の経営構想に基づき、教員の授業力向上策や子どもの学力向上策をなど、確かな学力の定着・向上を図るための学校の取り組みを各校が「学力向上マニフェスト」としてまとめ、保護者・区民に公表するとともにその成果も公表する。</p> <p>【創造力あふれる教育の推進】学校教育ビジョンの掲げる心の教育、健康や体力づくり、地域社会と一体となった教育を推進するために、各校の特色ある教育活動をより充実・活性化させる。教育活動の成果については、積極的に公表し説明責任を果す。</p> <p>【未来を拓く子どもの育成】個性や可能性を開花させる教育を一層充実させるため、子どもの学びを引き出す教育環境を一層整える必要がある。そのため、学校の提案による優れた特色ある企画・実践に対して、必要と認める予算を配当し教育効果を挙げる。</p>				
経過	平成19年3月、学校教育ビジョン - 「教育の荒川区」宣言！ - を策定。 平成20年4月、本事業開始。				
必要性	荒川区学校教育ビジョン - 「教育の荒川区」宣言！ - による学校教育の実現に積極的に取り組むために、校長の予算執行上の裁量権を大幅に拡大し、各学校の教育活動をさらに活性化させる必要がある。				
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額							72,407	
決算額(20年度は見込み)							72,407	
人件費								
【事務分担量】(%)								
合計(+)	0	0	0	0	0	0	72,407	
国(特定財源)								
都(特定財源)								
その他(特定財源)								
一般財源	0	0	0	0	0	0	72,407	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	一般賃金					臨時職員	4,000
	報償費					校内研修会費	19,005
	特別旅費					研究会旅費	6,000
	食糧費					ふれあい給食	22
	一般需用費					消耗品等	19,569
	役務費					プリペイドカード代等	290
	使用料賃借料					会場使用料等	4,669
	備品購入費					備品購入	9,264
	委託料					講演会委託等	6,088
	負担金補助					研究会参加費	3,500

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	自己評価による目標達成率				50.0%	100.0%	実施校 / 学校数
	マニフェスト等の取組に対する保護者等の満足度				70.0%	100.0%	実施校 / 学校数

（指標分）	<p>本事業を、学校経営戦略としての捉えや意義を、すべての校長に浸透させること そのうえで、各学校の教職員全員が一体となって、学校改善に取り組むよう指導すること。 また、校長の経営ビジョンを明確に打ち出す的確な予算執行を行わせること。</p>
他区の実況	（ 実施 区 未実施 22 区 ）

問題点・課題の改善策検討		
	平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	学力向上マニフェストの作成、実践、評価、公表、改変の各段階における具体的な方策を提示する。	効果的なマニフェストを活用すると共に、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上に資する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
	重点的に推進	各学校の一層の創意工夫を促す。

況議（要質問状）	平成20年 第1回定例議会 「学力マニフェストとはどのようなものか」
----------	------------------------------------

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	学力向上共同調査研究費	部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	鈴木 明雄
		担当者名	稲垣達也	内線	3387
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	学力向上共同調査研究費				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	20年度	根拠	
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準		計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	確かな学力の定着・向上[04-01]			
目的	荒川区の教育の活性化を図るため、早稲田大学、荒川区教育委員会、荒川区立小中学校が共同調査研究を行い、荒川区の教育の課題を分析するとともに、学力向上に向けた教育委員会の施策や学校経営等に対する提言をまとめる。				
対象者等	区内小・中学生				
内容	(1) 全国学力・学習状況調査の分析及び学力向上に向けた提言 (2) 学力向上マニフェスト事業の効果的推進 (3) 荒川区の外部評価制度の構築と第三者評価の試行 (4) 教育委員会事務局及び学校の組織・運営の改善について提言 (5) 理科教育支援事業の推進				
経過	平成20年度新規事業				
必要性	荒川区学校教育ビジョンを受け、今後の施策運営の在り方や具体的な改善策について、さらなる前進をするために、第三者機関の協力を得て、これまでの学校教育及び教育委員会の教育施策の成果と課題を分析的に検証していく必要がある。				
実施方法	(2-一部委託) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				

		（単位：千円）						
予算・決算額等の推移		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
		予算額						
	決算額（20年度は見込み）							3,000
	人件費							
	【事務分担当】（%）							
	合計（+）	0	0	0	0	0	0	3,000
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）							
	一般財源	0	0	0	0	0	0	3,000
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	負担金					調査研究委託	3,000

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
	研究報告書				100%	100%	報告事項数 / 研究事項数
標							

（問題点・課題 指標分析）	<p>第三者機関である早稲田大学プロジェクト研究所との連携を密にし、効果的な研究を推進すること。 学校及び教育委員会の実践に沿った研究とし、本区が意図する目的を果たすこと。 成果と課題の検証を、客観的、分析的に、根拠をもって明らかにすること。 その際、実践と結果との因果関係を明らかにすること。 今後の改善策を、実現可能で、効果的、具体的なものとする。</p>
他区の実況	（ 実施 0 区 未実施 22 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
	重点的に推進	早稲田大学の専門性を生かし、効果的に研究を推進する。

況議 （要質 問問 状状）	平成19年第4回定例会「全国学力調査の結果の分析について」
------------------------	-------------------------------

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	算数・数学大好き推進事業	部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	鈴木 明雄
		担当者名	柿沼 広美	内線	3386
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	算数・数学大好き推進事業				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	20年度	根拠	
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	確かな学力の定着・向上[04-01]			
目的	算数・数学への興味・関心を高め、確かな学力の定着を図るために、習熟度別学習に加え、小学校1,2年生時の算数から少人数指導やチームティーチングにより、きめ細やかな指導を実施する。				
対象者等	児童数30人以上の学級の全小学校1,2年生				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・算数、数学への興味関心を高め、確かな学力の定着を図るために、従来の習熟度別学習を小学校3年生以上に現状のまま残しつつ、少人数による個に応じた指導を、小学校1・2年生に導入する。 ・算数・数学科における問題解決能力を育成するための副読本を作成する。 ・全国の算数・数学研究に対し、副読本作成委員を派遣し、広い視野から本区の算数・数学教育の改善を図る。 				
経過	平成20年度新規事業				
必要性	基礎学力の確かな定着と個性や能力の伸長を図る教育を充実させるために、児童・生徒の習熟の程度に応じたきめ細やかな指導を充実させる必要がある。				
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額							20,755	
決算額（20年度は見込み）							20,755	
人件費								
【事務分担量】（%）								
合計（+）	0	0	0	0	0	0	20,755	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	0	0	0	20,755	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費					講師謝礼金	20,755

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	学力向上を図るための調査(都)	小算9位 中数38位	小算22位 中数40位	/	/	小算10位 中数30位	該当教科の順位（49区市中の順位） H18年度で都悉皆調査終了

（問題点・課題）	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導力の向上 ・算数数学大好き業講師の効果的な活用の在り方 ・指導計画の充実、学習形態の工夫 ・きめこまかな指導による成果の検証
他区の実況	（実施 0 区 未実施 22 区）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
	重点的に推進	算数・数学教育のより一層の充実を図り、学力向上に資する。

議会議事録（要旨）	
-----------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	小中一貫教育推進事業	部課名	教育委員事務局会指導室	課長名	鈴木 明雄
		担当者名	平田 英司	内線	3385
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	小中一貫教育推進事業				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	20年度	根拠	
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	確かな学力の定着・向上[04-01]			
目的	平成21年度に、白鬚西地区に新しい小学校が開校することを踏まえ、平成19年度より、汐入小学校と第三中学校との間で、小学校1校中学校1校で小中一貫教育を実施する研究を開始している。				
対象者等	児童・生徒・保護者・地域				
内容	<p>荒川区学校教育ビジョンが目指す「未来を拓き、たくましく生きる子ども」を目指し、第三中校と汐入小学校（及び新設小学校）が共通の学力観、指導観に基づく継続的かつ一貫性のある指導で、確かな学力の定着・向上を図る。そのための年間指導計画を整備する。</p> <p>教育活動の交流や施設の共同使用を積極的に進めるとともに、教員間の組織的な一体化を図り、小学校と中学校との円滑な接続を図る教育課程を整備する。そのことにより、地域と一体となった教育の実現を図る。</p>				
経過	平成19年度は「学校教育ビジョン事業」の中で実施 平成20年度新規事業				
必要性	荒川区の小中一貫教育推進のために不可欠である。				
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額							860	
決算額（20年度は見込み）							860	
人件費	/	/	/				/	
【事務分担量】（%）	/	/	/				/	
合計（+）	0	0	0	0	0	0	860	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	0	0	0	860	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費					講師料	530
	一般需用費					消耗品等	60
	特別旅費					研究大会旅費	262
	負担金					研究大会参加費	8

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
	研究の進捗状況の報告会の開催				1回	1回	研究発表会（中間）平成21年2月9日

（問題点・課題）	<p>第三中学校と汐入小学校を平成19～21年度（3年間）の研究指定を行う。 平成20年度に中間発表を行う。 平成21年度に成果発表を行うとともに、小・中3校連携に向けた教育課程を作成する。</p>
他区の実況	<p>（実施区 未実施区）</p> <p>品川区（小中一貫校開設済み 日野学園 伊藤学園） 足立区（小中一貫校開設済み 興本扇学園） 三鷹市（小中一貫校開設済み にしみたか学園）</p>

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
小中の一貫性のある教育課程の編成	汐入地区新校開設に備える。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
	推進	汐入地区の小中一貫教育の充実に資するための研究を行う。

況（要旨）	
-------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	食育推進事業	部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	鈴木 明雄
		担当者名	平田 英司	内線	3385
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	食育推進事業				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	20年度	根拠	
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準		計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	確かな学力の定着・向上[04-01]			
目的	子どもたちに基本的な生活習慣を身に付けさせ、成長期にある子どもにとって、健やかに生きるための基礎を培うことを目指し、食育推進事業を実施する。				
対象者等	幼児・児童・生徒・保護者・地域				
内容	(1) 食育推進校の指定 瑞光小学校 第二峡田小学校 尾久小学校 尾久宮前小学校 第七中学校 原中学校 (2) 「早寝・早起き・朝ごはん」推進校 ひぐらし小学校 (2) 荒川区「子どもの食と生活習慣調査」の実施（平成19年度） 調査 平成19年7月 対象 食育推進校（ひぐらし小を含む） （小学生 1637名 中学生 382名 保護者 1604名） 調査方法 質問紙調査 (3) 荒川区「早寝・早起き・朝ごはん」推進会議 第1回 平成20年1月25日 第2回 平成20年2月21日 第3回 平成20年2月27日 メンバー 学識経験者 保護者 区民 学校関係者 教育委員会 (4) お弁当レシピコンテスト（平成20年7月～10月実施予定）				
経過	平成19年度は「学校教育ビジョン事業」の中で実施 平成20年度新規事業				
必要性	荒川区の食育充実のために不可欠である。				
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額							3,485	
決算額（20年度は見込み）							3,485	
人件費								
【事務分担量】（%）								
合計（+）	0	0	0	0	0	0	3,485	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	0	0	0	3,485	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費					講師料	637
	一般需用費					消耗品等	1,813
	委託料					食に関する調査	1,000
	使用料					会場使用料	16
	役務費					筆耕翻訳料	19

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	食育推進に関する取り組み				7校	33校	推進校 全校へ

（問題点・課題分析）	各校の食育推進のための全体計画と年間指導計画を作成し、食育の充実を図る。
他区の実況	（実施 22 区 未実施 0 区）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
食育推進のための全体計画と年間指導計画の作成	全校で食育推進のための全体計画と年間指導計画の作成につなげる

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
	推進	荒川区の食育推進に資するための研究を行う。

議（要旨）	平成20年3月 平成20年度予算特別委員会「締め括り質疑」浅川議員「お弁当の日」を設けてはどうか。
-------	---

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	生命尊重教育の充実(BLS)	部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	鈴木 明雄
		担当者名	山根 博	内線	3386
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード(20年度)	生命尊重教育の充実(BLS)				
事務事業の種類	新規事業 (20年度 19年度)		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	20年度	根拠	
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	確かな学力の定着・向上[04-01]			
目的	<p>児童・生徒に命の大切さや救急救命を学ばせる方法としてBLS(Basic Life Support)教育がある。BLSは一次救命処置と和訳され、日常生活で突発する緊急事態(健康危機)に際して即座に判断し、とるべき行動をまとめたプログラムである。目の前で人が倒れたときに、適切に対処することは容易ではなく、学童期からの反復教育が有効と言われ、多くの先進諸国では学校や地域社会でBLSが教えられている。この反復教育を通じて、単に健康危機に対する対処の技術を教えるのみならず、実践を通じて生命の尊厳や市民としての義務などを学ぶ機会とする。</p>				
対象者等	原中学校				
内容	<p>生命を大切にすることを養うとともに、救急救命の知識を身に付ける。 (1) 道徳教育のとの関連から「心の教育」を実施する。 (2) 救急救命の体験的な活動を通し、生命を尊重する態度を養う。 (3) 救急救命に対する市民としての役割について学ぶ。</p> <p>中学校にモデル校を設置し、BLS教育の試行を実施することで、全校に普及していくための調査研究を実施する。</p>				
経過	平成20年度新規事業				
必要性	生命を大切にすることを養うとともに、救急救命の知識を身に付けるために必要である。				
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額							925	
決算額(20年度は見込み)							925	
人件費								
【事務分担量】(%)								
合計(+)	0	0	0	0	0	0	925	
国(特定財源)								
都(特定財源)								
その他(特定財源)								
一般財源	0	0	0	0	0	0	925	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	モデル校数							1

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費					講師料	152
	消耗費					テキスト代等	178
	負担金					モデル人形レンタル料	595

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	予算執行率				100%	100%	決算額 / 予算額
	モデル校数				1	3	モデル校数

（問題点・課題 指標分析）	小学校にもモデル校を拡大する。中学校のモデル校を調査、研究、分析し、全校普及の啓発を図る。
他区の実況	（ 実施 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
道徳、体育、総合的な学習の時間等を通じて、時間数の確保をするとともに、小学校・中学校全校実施を図る。	小学校及び中学校で学んだBLS教育を通じて、単に健康危機に対する対処の技術を教えるのみならず、実践を通じて生命の尊厳や市民としての義務などを学ぶ機会とすることができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
	重点的に推進	BLS教育のモデル校を設置し、調査研究を行い、普及を図る。

況議（要質問状）	
----------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	理科教育支援事業	部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	鈴木 明雄
		担当者名	山根 博	内線	3386
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	理科教育支援事業				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	20年度	根拠	
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分
				計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	確かな学力の定着・向上[04-01]			
目的	理科教育先進モデル校を設置し、児童・生徒の理科に対する興味・関心を高めるような「おもしろ理科実験授業」等のモデルとなる授業をすすめる。				
対象者等	第四峡田小学校				
内容	・理科支援員の配置（モデル校）校に理科支援員を配置する。理科授業における 観察・実験のプランニングへの支援 観察・実験の準備・片付け等の支援 観察・実験の支援（早大との連携） 指導力向上への支援 理科教育環境整備 配置（モデル）校は、理科授業の改善・充実を図る視点から、必要性の高い学校に配置する。				
経過	平成20年度新規事業				
必要性	児童・生徒の問題解決能力、実験・観察の能力の向上を図るために必要である。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額							598	
決算額（20年度は見込み）							598	
人件費								
【事務分担量】（%）								
合計（+）	0	0	0	0	0	0	598	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	0	0	0	598	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	モデル校数							1

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費					講師謝礼金	598

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	予算執行率				100.0%	100.0%	決算額 / 予算額
	研究成果発表会				0回	1回	研究成果発表会の回数

(問題点・課題)	教員の指導力向上（理科の実験・観察のスキルアップ） 理科室の環境整備 教員自らが楽しいと思えるような実験・観察の教材開発
他区の実況	（ 実施 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
おもしろ理科実験のモデル校の実践を通じて、教材の共有化を図る。	おもしろ理科実験のモデル校の実践を通じて、教材の共有化を図り、理科好きの児童・生徒を増やすことができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
	推進	モデル校が、理科教育の先進的な研究に取り組み、研究の成果を区内の学校に普及することにより区全体の理科教育の水準の向上を図る。

況議(要旨)	
--------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	理科教室等運営	部課名	指導室教育センター	課長名	鈴木 明雄
		担当者名	中山 久美子	内線	3802-5720
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	理科教室等運営費(38-80-50-01)				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	39 年度	根拠	荒川区立教育センター条例・理科教育振興法	
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	確かな学力の定着・向上[04-01]			
目的	子どもたちや区民を対象に、壮大で美しい星や惑星などを観望したり、学習することにより宇宙の魅力を体感してもらう。また、理科や科学について学校での授業に役立つ内容をテーマに、教員対象の研修会を実施する。				
対象者等	区内小・中学校の児童・生徒、教員及び一般区民				
内容	<p>(1) プラネタリウム プラネタリウム学習会・・・小学4年生の理科事業の一環として6～7月・1～2月の年2回にプラネタリウム館での学習投影会を行っている 幼稚園・保育園プラネタリウム・・・幼稚園・保育園の園児を対象に、希望する園には5～6月に投影会を実施している。 区民プラネタリウム・・・各月の第二、第四土曜日には区民等を対象に午後2時から投影を実施している。なお、区民等対象の天体観望会については平成18年度から休止中である。</p> <p>(2) 理科指導研修会 小学校、中学校の教員を対象に、児童・生徒への理科指導及び指導技術の充実を図るため、理科指導研修会を年数回実施している。</p>				
経過	昭和39年の区立科学館開館以来、様々な形で区内の小・中学生や、教職員を対象に理科教育振興のための理科指導研修会やプラネタリウムを活用した事業等を行ってきた。昭和43年教育センターと名称が変わってからも、同様の事業を実施してきている。				
必要性	子どもの理科離れが懸念されているなか、保育園・幼稚園、小学校・中学校の児童・生徒、一般区民に対し、プラネタリウム投影を実施することにより、宇宙の魅力を体感してもらい、理学的な知識や興味、関心を高める。理科指導研修会により、教員の理科指導技術を高め、理科の魅力を児童・生徒に教えて興味・関心を高める。以上の観点から、当区にとって必要性は高い。				
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				
	プラネタリウムは区非常勤1名のほか都非常勤1名。理科指導研修会は外部講師を依頼。				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
予算額	804	770	765	802	811	680	890	
決算額(20年度は見込み)	644	645	547	618	537	603	890	
人件費				4,740	1,281	2,500		
【事務分担量】(%)				55	15	65		
合計(+)	644	645	547	5,358	1,818	3,103	890	
国(特定財源)								
都(特定財源)								
その他(特定財源)								
一般財源	644	645	547	5,358	1,818	3,103	890	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	理科指導研修会(回)	4	5	2	2	1	2	2
	幼・保プラネタリウム(人)	995	784	711	650	557	626	597
	小学校プラネタリウム(人)	1,143	1,427	1,147	940	1,629	1,497	1,300
	区民プラネタリウム(人)	788	1,012	1,289	1,295	1,245	1,018	1,110

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	理科指導研修会謝礼	0	理科指導研修会謝礼	69	理科指導研修会謝礼	72
	一般需用	消耗品（図書等）	306	消耗品（図書等）	335	消耗品（図書等）	408
	使用料及	プラネタリウム送迎バス	231	プラネタリウム送迎バス	200	プラネタリウム送迎バス	410

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	小4プラネタリウム参加校率	47.8%	60.8%	65.2%	70.0%	80.0%	参加校2回分/対象校×2
	幼・保プラネタリウム参加園率	33.3%	31.1%	36.9%	40.0%	50.0%	参加園/対象園
	区民プラネタリウム参加率	0.68%	0.65%	0.57%	0.80%	1.00%	参加者数/区住民登録者

（問題点・課題）	<p>プラネタリウムや天体観望は区民の利用が多く喜ばれている。しかしながら、投影機が古いため大きな故障をおこした時に業者がどこまで対応できるかが問題である。さらに同様の理由で教材購入にも制約があり最新の視聴覚データの活用が難しい。このため手作りスライドを作成するなどして最新の天体情報を伝えることができるように苦心している。</p> <p>天体観望会は夜間を実施するため職員の体制が整わず、現在は実施が難しい状況にある。今後、実施するためには職員の体制等各種の条件整備が不可欠である。</p>
他区の実況	<p>（実施 11 区 未実施 11 区）</p> <p>ただし、プラネタリウム実施区：中央区、中野区、杉並区、墨田区、北区、板橋区、足立区、葛飾区、品川区、新宿区、世田谷区、（文京区2007年教育センター移転に伴い閉鎖）</p>

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
<p>プラネタリウムの機械が古いため、オリジナル部品の入手が困難になってきているが、メンテナンスを続けて維持管理する。また、投影機械の調整・スライド製作等すべてが手作りであるが、現在の人員（嘱託員2名）で出来る限り投影を続けるが人員増も必要である。</p>	<p>プラネタリウム投影機のメンテナンスを続けて、大切に使用し、現役で一番古い投影機という特性を生かし、さらに人員を増やして手作りの良さをアピールしながら運営することが、利用者（園児、児童、区民等）のニーズに応え、理科教育の一翼を担う効果をあげる。</p>
<p>天体観望会を実施するには、夜間のため現在の職員体制では困難である。参加者への天体観測の指導・補助及び安全管理について改善する必要がある。</p>	<p>夜間に天体観望会を実施するには、実施場所の安全対策の整備、職員体制（人員増等）を整えなければならない、費用対効果の面では疑問がある。</p>

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	指導内容の充実を図る。

議会議決要旨	
--------	--